

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

XIII 政党

6 民社党

3 大会・中央委員会

第一八回中央委員会

民社党第一八回委員会は八二年一〇月一四日、東京・新宿区の日本青年館に中央委員、本部役員など二七二人を集めて開かれた。この中央委員会は、参議院選挙制度の改革をうけ、激動する政局に対処し、八三年政治決戦への準備体制を整えるためのものであった。冒頭、あいさつに立った佐々木委員長は「鈴木退陣で国民の政治不信は深まろう。民社党が伸びなければ日本はダメになる。立党の精神をもう一度かみしめ、国民的使命を確認しながら奮起しよう。八三年政治決戦の目標が五五年体制の打破にあるかぎり、選挙協力についても、中道勢力結集問題についても一層情熱をもって、状況を分析し模索検討を続ける」と決意を述べた。つづいて塚本書記長の党務報告、永末国対委員長の国会活動報告、中村副委員長兼選対委員長の総合選挙対策に関する件、大内政審会長の新財政再建五ヶ年計画の提案に関する件、米沢地方議対委員長の統一地方選挙政策の提案があり、質疑ののち承認された。この間、あいさつにかけつけた宇佐美同盟会長は、「民社を中心とする中道勢力が大きくなり、問題解決のカギになってもらいたい。同盟も努力する」と激励。諸提案が承認されたのち、中村副委員長兼選対委員長より道府県議会議員および政令指定都市議会議員候補者の公認・推薦(第一次)の発表があり、最後に人事院勧告凍結の撤回・仲裁裁定完全実施のための早期議決を求める決議を採択して閉会した。

第二八回全国大会

民社党第二八回定期全国大会は、八三年二月一五日から一七日までの三日間、東京・九段会館で開かれた。この大会は、八三年政治決戦への出陣の集い、総決起大会と位置づけられ、選挙勝利の体制を確立することを中心的な課題とした。冒頭、あいさつに立った佐々木良作委員長は、(1)権力主義的姿勢、(2)軍国主義的性向、(3)政治倫理に対する姿勢の三点にわたって中曽根首相の政治姿勢を批判。この政治姿勢を明確な攻撃目標の第一とし、増税路線の阻止を第二、議会制民主主義政治を発展させるための自民党一党支配体制の打破、政権交替体制の回復を第三の目標とすることを訴え、まず、与野党の政治勢力比を前回総選挙前の保革伯仲の状態にまで回復するという具体的目標を提起した。また、大会直後にも国会は一気に重大な局面を迎えるかもしれないとしつつ、「局面が重大化しても、やむをえない。対決あるのみ」と述べ、衆院解散—総選挙も辞さない構えで対決していく決意を強調した。

大会経過

委員長あいさつにつづき、来賓として出席した竹入義勝公明党委員長、河野洋平新自由クラブ代

表代行、田英夫社民連代表、宇佐美忠信同盟会長、中村卓彦全民労協副議長、関嘉彦民社研議長、森田弥一全国中小企業団体中央会組織委員長、中村吉次郎全国農民総連盟委員長が、激励のあいさつ。社会主義インターからの祝辞や内外からの祝電が披露され、韓国新政社会党の代表団も紹介された。このあと、党務報告・塚本書記長、国会活動報告・永末国対委員長、決算報告・柄谷総務局長、会計監査報告・木下会計監査、統制委員会報告・安里統制委員長などの報告がなされ、質疑の後、満場一致で承認された。

議事に入り、八三年度運動方針を塚本書記長、役員選挙を柄谷総務局長、組織活動方針を柳沢組織局長、政策を大内政審会長、予算を柄谷総務局長がそれぞれ提案。ただちに、運動方針を第一分科会、組織活動方針・予算を第二分科会、政策を第三分科会に付託し 第一日を終了した。

第二日は、運動方針を審議する第一分科会、組織活動方針と予算を審議する第二分科会、政策を審議する第三分科会に分かれ、終日討議がおこなわれた。

第三日は、各分科会での討議が報告され、満場一致で承認。昭和四五年以来、本部会計監査をつとめてきた小林利氏に名誉党員の称号と楯が送られた後、柳沢組織局長によって党員表彰が提案され、党勢拡大に貢献した個人一三五人、二五団体と特別表彰として七人が表彰された。また、七万人目の党員として三島宏一郎氏に色紙が送られた。このあと、つぎの決議案が提案され、それぞれ満場一致で採択された。(1)八三年政治決戦必勝決議、(2)政治倫理確立に関する決議、(3)行政改革断行・大衆増税阻止に関する決議、(4)所得税減税の断行・不況打開に関する決議、(5)婦人差別撤廃条約の早期批准促進に関する決議、(6)北方領土の返還を求める決議。

午後、参議院議員候補者の紹介をおこない、投票を省略して新役員を承認した後、佐々木委員長が、「暖冬であったが、大会三日目の今日は大雪。これは政治決戦に心をひきしめて断固闘いぬけとの天の声だろう。天の時と人の和を得て、この三日間、中身を充実し、一枚岩の団結ができた。力いっぱい闘おう」とあいさつ。大会宣言を発表し、最後に「政治決戦勝利のためにがんばろう」を三唱して、大会は終了した。なお、この大会での委員長あいさつ全文は『週刊民社』二月二五日付に、大会宣言、来賓あいさつ、質疑、分科会討論の、詳細は同三月四日付に掲載されている。

【大会宣言(要旨)】

本大会は政治決戦への出陣の集いでもあった。「政治倫理の確立」「行革断行・大衆増税の阻止」「所得税減税・景気回復の実現」を高く掲げ、軍国主義的性向を強める中曽根内閣ときびしく対決し、自民党一党支配体制打破をめざして闘いぬこう。われわれが強くなることによって中道政治勢力結集の中核となり、われらが宿願の政治改革も実現できる。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始